

I 研究の構想

学校教育目標

心豊かでたくましく、心身ともに健やかな鳴鼓っ子の育成

学校スローガン「響かせよう 響き合おう」

研究主題

「思いを語り合える子供の育成」

～筋の通った単元構成と「言葉による見方・考え方」を働かせる国語科学習を通して～

国語科で目指す子供像

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ・主体的に学び合う子供
相手の思いを受け止め、尊重する子供
- ・自分の考えを言葉で適切に表現できる子供
- ・言葉の働きや役割・書き手の思いを理解できる子供

生きて働く
「知識・技能」

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

研究の視点1 単元構成の工夫

- (1) 単元の「重点指導事項」「読みの視点」「言語活動」が一体となった学習課題の設定
- (2) 読みの汎用的能力育成のための、学習用語指導と学習内容の系統性を重視した単元構成
- (3) 子供が学びを主体的に行い、その成果を自覚できる魅力的な言語活動の設定

研究の視点2 一単位時間の構成の工夫

- (1) 「言葉による見方・考え方」を働かせるための「問い」のある授業作り
- (2) 主体的・対話的な学びを意識した授業スタイルの構築
- (3) 子供自身が本時の学びを自覚する（学びの価値付けをする）場面の設定

「読む力」を育てる国語科学習

家庭学習 読書指導 RST（リーディングスキルテスト）を用いた読解力の改善
学習環境の整備（言葉に触れる環境作り・学習の足跡揭示等）
支持的風土作り

Ⅱ 研究仮説

【研究仮説①】

「読むこと」の各学習過程において、明確な学習課題によって単元の筋を通したり、単元の系統性を意識しながら汎用的な読みの力を培ったりすることで、主体的で深い学びが促され、思いを語り合える子供が育つであろう。

子供に示す明確な学習課題

「単元の重点指導事項」「読みの視点」「価値ある言語活動」を一体とした学習課題。教師と子供にとって、その単元を貫く課題意識や、目的意識を明確にする指針となるもの。

汎用的能力

実生活に生きて働く普遍的な力。単元の学習を進める際、子供自身も「何ができるようになるか」を知っておくことで、「教材」によって「汎用的能力」を獲得するという学びの道筋が明確になる。

【研究仮説②】

一単位時間の授業の中で、教師が「言葉による見方・考え方」を働かせるための「問い」を仕組んだり、主体的・対話的な学びを意識した授業展開を行ったりすることで、深い学びが促され、思いを語り合える子供が育つであろう。

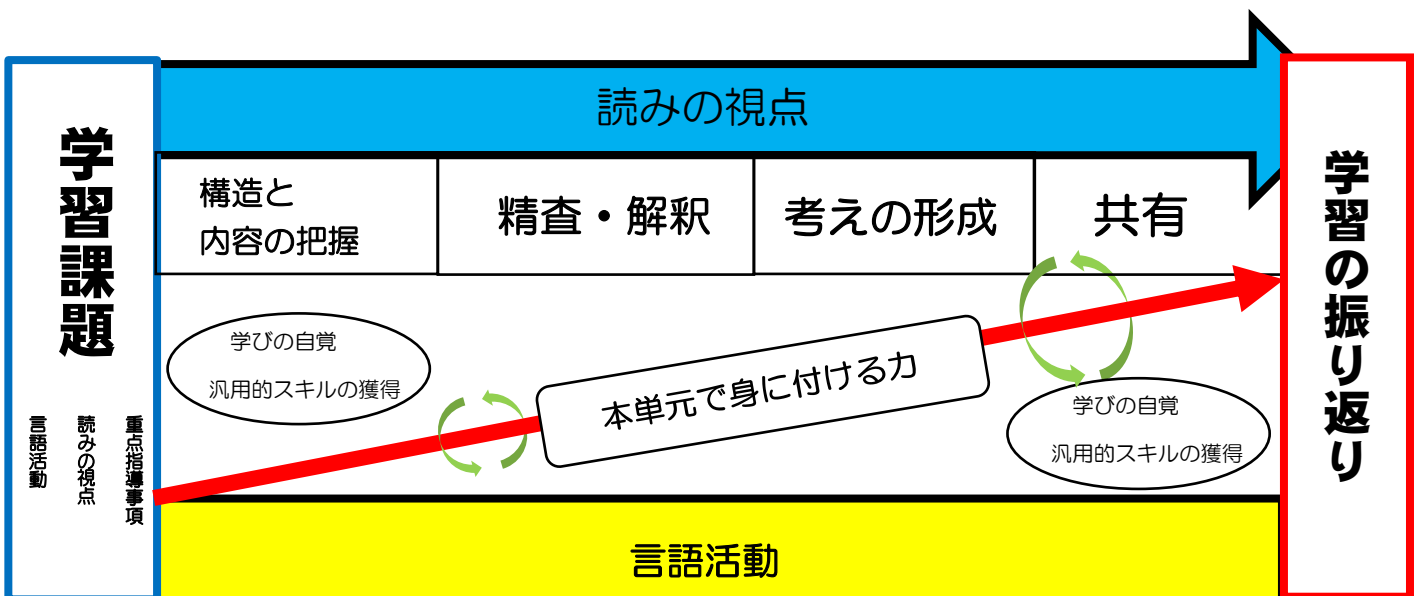
言葉による見方・考え方を働かせる「問い」

本時のねらいを達成するために欠かせない視点や考え方を明確にするもの。この「問い」は常に、子供の思考の流れの中にあり、「深い学び」の鍵となる。

主体的・対話的な学びを意識した授業展開

「友達と自分の考えとのつながり」「学級集団としての思考のつながり」「他者との学び合い」が、子供主体で行われていくような授業展開。子供たちの学習語彙の獲得や、学習の支持的風土が不可欠である。

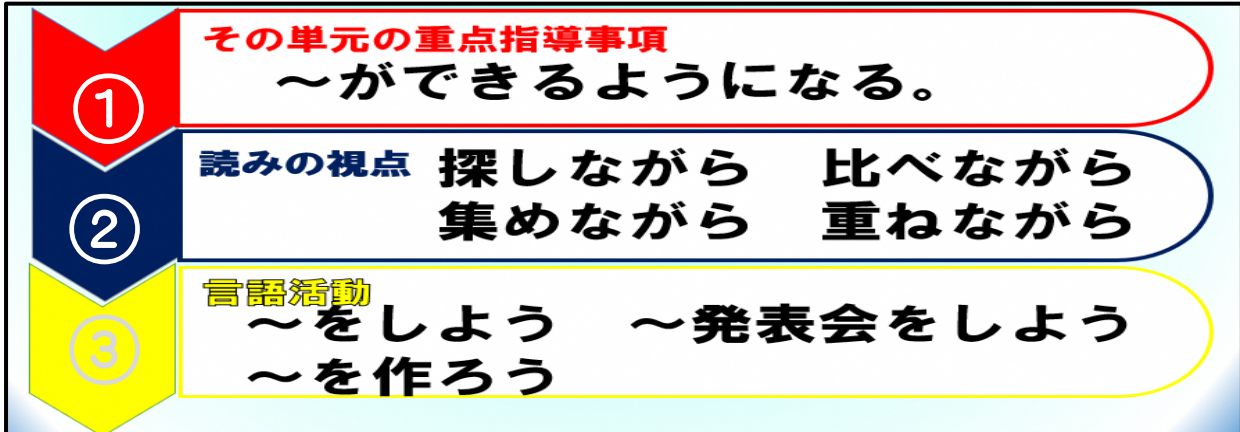
【単元構成の工夫】のイメージ



Ⅲ 研究の実際

1 単元構成の工夫

- (1) 「重点指導事項」「読みの視点」「言語活動」が一体となった学習課題の設定
本校で実践している「読む」単元での学習課題の形



① その単元の重点指導事項

教材文自体を読み深めることが目的ではなく、「教材文を通して」汎用的な読みの力、つまり「重点指導事項」を児童に身に付けさせることが大前提である。したがって、課題の最初に定める。

② 読みの視点

① を達成するために、どのような視点をもって教材文を精査・解釈していけばよいかを定める。

③ 言語活動

児童が「取り組みたい」と思える魅力的な活動であると同時に、①の達成が見込まれるものを精選し、定める。

- (2) 読みの汎用的能力育成のための学習用語指導と学習内容の系統性を重視した単元構成

学習用語

児童が学習の中で使っていくべき国語の言葉。個人持ち「青ファイル」に綴じ、積極的に授業の中で使うよう指導している。

学習内容の系統

前単元、次単元で「どんな力を身に付けさせたか（させるか）」を教師が熟知し、その「つながり」を意識して単元計画を立てていく。児童にも、具体的な活動や教材を想起させ授業に臨むことで、本単元の目的意識が高まる。

- (3) 子供が学びを主体的に行い、その成果を自覚できる魅力的な言語活動の設定

※ 本校実践の言語活動例 他単元の学習課題・言語活動例は、「実践記録集」に記載。

説明文	物語文
獣医さんと自分の1日の過ごし方で、ちがうところ、同じところ発表会をしよう (2年生：動物園の獣医)	スイミーへのお手紙を書こう (2年生：スイミー)
「My アップとルーズ」を書こう (4年生：アップとルーズで伝える)	物語の「フ・シ・ギ」を紹介しよう (4年生：白いぼうし)
私の「2100年計画」を紹介しよう (6年生：自然に学ぶ暮らし)	「帰り道」に「3人目の視点」を加えよう (6年生：帰り道)

2 一単位時間の構成の工夫

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせるための「問い」のある授業作り

「児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり
 問い直したりして、言葉への自覚を高めること。」 (学習指導要領解説 国語編より)

めあてに沿って学ぶ中で、子供の思考の中にあられるであろう様々な言葉に関わる「問い」を取り上げることで、言葉を見つめ直す、捉え直す場面を意図的につくる。これにより、「深い学び」が実現でき、「思いを語り合える子供」の育成に寄与することができる。と考える。

これまでの実践で取り上げてきた「問い」の例

- 【4年生「アップとルーズで伝える」】
 「なぜ、4・5段落は、1・2段落と同じようなこと(対比構造)が繰り返し書かれているのだろう。」
- 【1年生「たぬきの糸車」】
 「なぜ、「びよんびよこおどりながら」という言葉がいるのだろう。」
- 【5年生「わらぐつの中の神様」】
 「わらぐつに対してマサエの見方が変わったと本文にはないのに、なぜそう感じたのだろう。」

(2) 主体的・対話的な学びを意識した授業スタイルの構築

- ・「子供同士のつながり」を意識した発言の指導により、「思いを語り合う姿」を具現化する。
 「繰り返します」「〇〇くんの考えを説明します」「つまりを言います」
 (前の子の意見を踏まえ、自分の意見をつなげていく)
- ・児童にとって魅力的な言語活動を設定する。
- ・明確な単元計画に基づき、児童全員に「今日何をするか」という「授業への構え」をもたせる。

(3) 児童自身が本時の学びを自覚する(学びの価値付けをする)場面の設定

「学びの自覚」とは、子供自身が、「自分は今日、〇〇ができるようになった。」「〇〇を解決したい時は、〇〇という考え方や比べ方が必要なんだ。」など、その教材に限らない「汎用的な力」を自覚するための時間である。この力の獲得こそが、子供たち自身の読みの力となる。本校では、青色のファイルにシートを綴じ、書き込んでいる。

「学びの自覚」のために、学習感想「なづみつけ」という手法を用いているが、本時の学習内容に関わる適用問題に取り組みせ、学びを確認することもある。

第5時	第4時	第3時	第2時	教材名
思っています。 変わったと思ったところを前の文と 変なところを比べてみました。	大きな考えを思いつく。	人物像を見つけたときは、自分と 比べてみる。	今日授業の「なづみつけ」 がある。	「なづみつけ」を書こう！

3 学習を支える取組

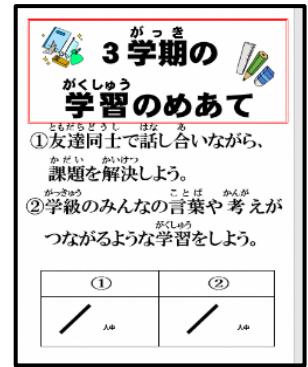
(1) 学力向上推進のために

【学級の支持的風土作り】

- ・ 話型個人掲示
- ・ 「学習のめあて」の作成と実施
(いつまでに、何ができるようになるか)
→ 実践記録集に詳細は記載。



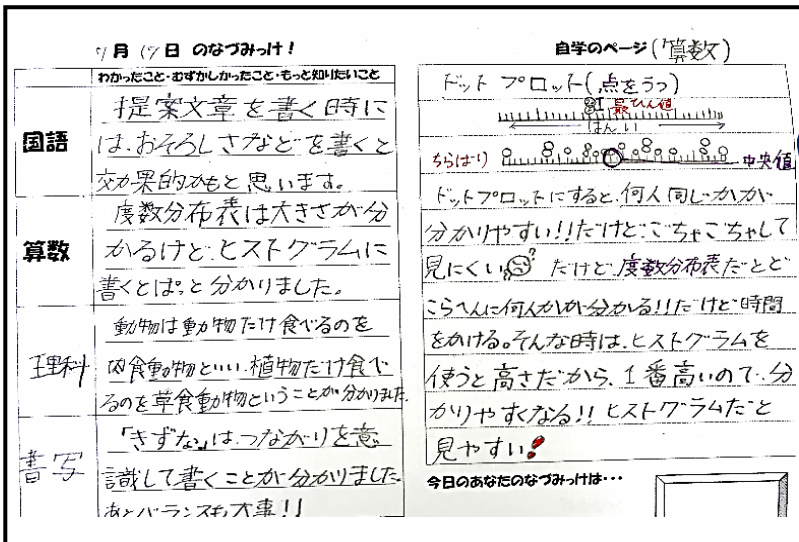
話型掲示



学習のめあて

【系統的な家庭学習の取組】

- ・ 家庭学習の系統と推進
低学年…漢字書き取り、計算・言葉プリント、日記
中学年…漢字書き取り、計算読解プリント、日記
高学年…漢字書き取り、自主学習、計算・言葉プリント
全学年…学習記録「なづみっけノート」



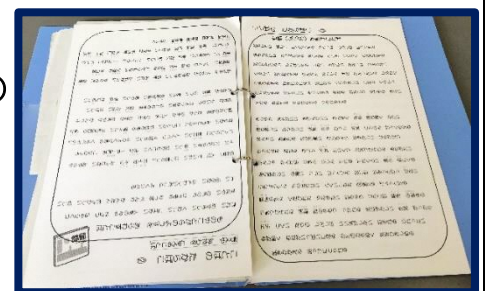
【なづみっけノートとは?】

その日の授業で「できるようになったこと」「気づき」「考えたこと」などを学年に応じて家庭学習で記録していくもの。中・高学年は左側を授業の振り返り、右側を自主学習のページとして週に2回程度取り組んでいる。国語科を中心に、各教科での学習記録を書くことで、家庭学習の習慣と基礎学力の定着を図る。

【系統的な学びを進めるための取組】

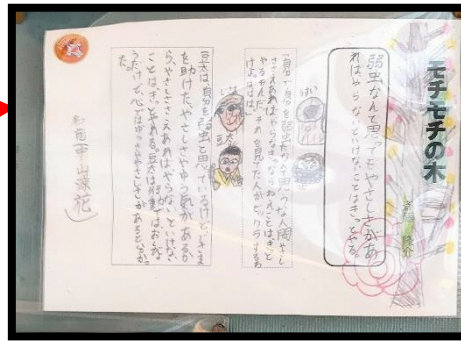
- ・ 国語科学習記録ファイル（通称 青ファイル）の活用
→ 全校児童に以下の資料を綴じさせ、授業の中で活用させている。

- ① 指導事項表（子供用にわかりやすくしたもの）
- ② ことばのたからばこ（1～6年生の教科書に掲載されている言葉をまとめ、掲載。下学年のものも、いつでも見られる状態にしておく。）
- ③ 国語で使う言葉（1～6年生の教科書等に掲載されている、国語科の用語を子供向けにしたものを掲載。）
- ④ 意味調べシート（各教材文で調べた意味を書きためる。）
- ⑤ なづみっけシート（学習感想など、「学びの自覚」関連のもの）
- ⑥ その他、各学年で作成した児童の成果物など、ストックしておく価値のあるもの



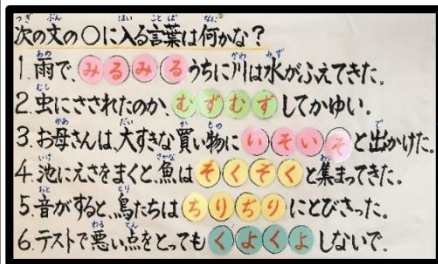
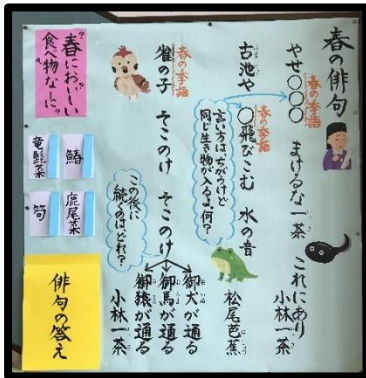
(2)学習環境の充実

【なづみっこの学びコーナーの設置】



自主学習ノートや授業のノート、ワークシートなど、各学年の学びのお手本となるようなものを玄関ホールに掲示している。

【校内掲示の整備】



特殊な読み方の日本語や、季節の言葉など、子供たちに増やしてほしい言葉を教科書等から探して掲示し、季節ごとに貼り替えを行っている。

【読書推進活動】

読書タイム 月～木 8:00～8:10
 教員・委員会での、本の読み語り
 「読書通帳」の全児童への配布による、「読書記録」
 読書スタンプラリー 10分間読書

読書ビンゴ
 ビブリオバトル



本校の図書貸出状況 令和元年度 1人あたり貸出冊数・・・197.7冊

令和元年度（7月末まで）		令和2年度（7月末まで）	
貸出数	20,813冊	貸出数	29,111冊↑
1人あたり	63.4冊	1人あたり	91.3冊↑
利用人数	10,577人	利用人数	14,068人↑
開館日数	69日	開館日数	67日

【RS（リーディング・スキル）を意識した授業作り】

RST（リーディング・スキル・テスト）の実施により、本校児童の「文章を読み解く力」を分析し、その傾向をつかむ。

全ての教科の中で、本校児童のRSの課題を意識した授業作りを行うことで、全教科の基盤となる「読み解く力」そのものを高めることを日々の授業の中で行っている。

右のシートは、本校で実践している「実践！RS」シート
 1週間に1度、授業の中で特に意識した項目についての実践を振り返り、記録している。

みんなで増やそう 『実践！リーディングスキル』

Q Step 1:【学年】・【教科】・【ページ】に○つけてください（ページ数も記入）

【学年】	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【教科】	国語	社会	生活	算数	理科	音楽
【ページ】	図工	家庭	体育	外国	総合	
【単元名】	上・下 P() ※1学期で1月の読書は必ず行う必要はありません					

Q Step 2:「どんな方法で実践をしたのか」「やってみてどうだったか」を簡単に記入してください

どんな方法で実践したのか	やってみてどうだったか

Q Step 3: RSの6つの分類のうちどれに当てはまるか、□のチェックをしてください

(※欄間にしむを奪って書えずに、『だぶん、これ!』という感覚でOKです!)

- 読み受け解明…文の構造を正しく把握し、誰かが何を、どうした、が分かる
- 題意解明…それ、これ、などの指示詞が指し示すものや省略されている主語・目的語が分かる
- 因果関係…2つの文を比較し、それらが因果関係があるかを正しく認識する
- 推論…既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する
- イメージ…提示された文が、どのようなことを表しているかイメージする
- 具体例…特定の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する
- 理数的…定義を理解し、その用法を獲得する

IV 研究の成果と課題

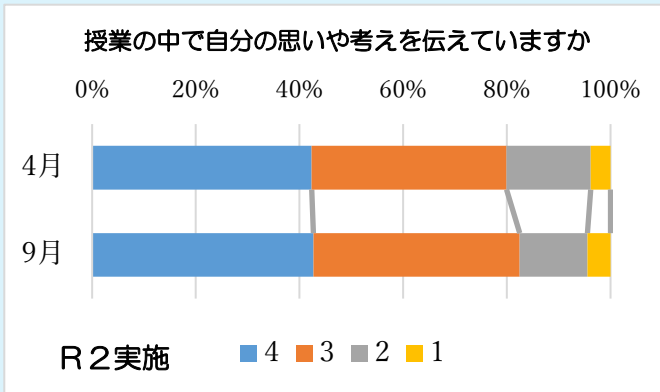
(1) 成果

全国学力調査結果 (R1)		
領域	本校	長崎県
話す聞く	74.9	69.6
書く	53.2	51.6
読む	84.2	79.3
言語事項	53.7	51.2

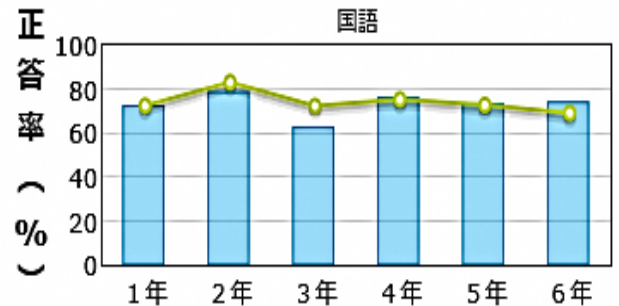
+4.9

全国学力調査結果 (R2)		
領域	本校	長崎県
話す聞く	77.1	75.4
書く	73.6	65.0
読む	75.7	67.9
言語事項	63.9	64.6

+7.8



■校内 ■全国 R1 CRT 学力調査結果



- 6年間での「学力の伸び」「学習意識」の向上
- 学習基盤の確立(教室は安心できる場所である)
- 確かな学力を育む家庭学習の効果
- 「できた!」「わかった!」今日、何を学んだかが子供に届く授業の実践
- 教師の授業力向上

(2) 課題

- 低学年での学力の伸び悩み、学年間の意欲の差
- 「言語事項」の定着
- 国語科から他教科にどのように広げていくか
- 全員が「思いを語り合える」ようになるためのさらなる改善